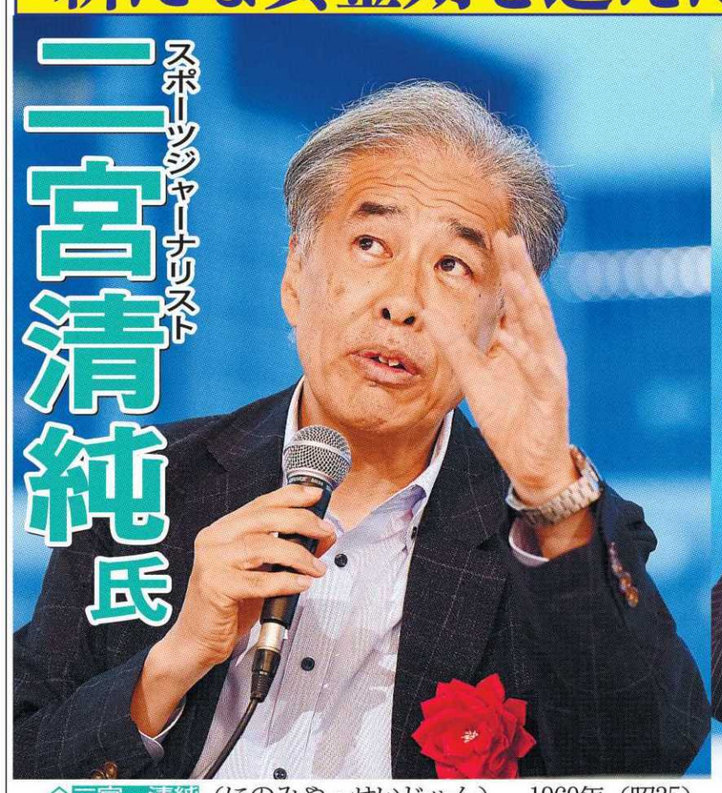
「新たな黄金期を迎えた日本のボクシング界」～その強さの本質を紐解く～

第77回スポーツニッポンフォーラム

スポーツ振興支援と国民の体力づくりを考える異業種交流勉強会「第77回スポーツニッポンフォーラム」が20日、東京都千代田区のKKRホテル東京で開催され190人が参加した。「新たな黄金期を迎えた日本のボクシング界」～その強さの本質を紐（ひも）解く～がシンポジウムのテーマ。パネリストとしてスポーツジャーナリストの二宮清純氏(65)、元WBC世界フライ級王者・内藤大助氏(50)、元WBA世界スーパーフェザー級スーパー王者・内山高志氏(45)が登壇し、約1時間にわたり意見を交わした。



スポーツジャーナリスト
二宮清純氏

◇二宮　清純（にのみや・せいじゅん）　1960年（昭35）2月25日生まれ。愛媛県八幡浜市出身。スポーツジャーナリスト。スポーツコミュニケーションズ代表取締役。本紙で「唯我独論」を連載中。五輪・パラリンピック、サッカーW杯、メジャーリーグ、ボクシング世界戦など内外で幅広く取材。

元WBC世界フライ級王者
内藤大助氏

◇内藤　大助（ないとう・だいすけ）　1974年（昭49）8月30日生まれ。北海道豊浦町出身。豊浦高卒。元WBC世界フライ級王者。プロ通算成績は36勝（23KO）3敗3分け。トリッキーな右ファイター。1㍍63。血液型O。家族は夫人と2男の4人。

元WBA世界スーパーフェザー級スーパー王者
内山高志氏

◇内山　高志（うちやま・たかし）　1979年（昭54）11月10日生まれ。埼玉県春日部市出身。花咲徳栄―拓大。元WBA世界スーパーフェザー級スーパー王者。爆発的な強打でKOの山を積み重ねた。1㍍72。血液型O。ニックネームはノックアウト・ダイナマイト。

待望される日本人王者対決

井上が上も中谷はやりづらい相手
自分より大きな相手にも勝つ井上
ファンが望むのは誰が一番強いか

二宮氏　内藤氏　内山氏

井上と中谷の試合

二宮　本題に入りましょう。井上尚弥と中谷潤人の試合です。僕は40年以上、スポーツの取材をしているが、野球の大谷翔平とボクシングの井上尚弥のような選手が出てくるとは思わなかった。この2人は別格。

内藤　僕も同感。

内山　凄いですね。前回の中谷の試合を見ると雑に戦っていた。まだ井上が強いが、中谷が相手ではやりづらいと思う。最終的には井上が勝つと思うが、序盤は面白い勝負をすると思う。

二宮　内藤さんは。

内藤　井上は、自分より体が大きな相手にも勝つし、まだ井上が上かな。天才という言葉は好きではないが、天才はいる。

二宮　井上と中谷の試合は世界中が注目する大一番。注目度では薬師寺対辰吉戦、畑山対坂本戦をはるかに超える。ところで今はWBA、WBC、IBF、WBOの4団体があり、インフレ気味。世界王者になりやすい時代。

内藤　僕の現役の頃にもメジャー4団体と言っていたので、なぜ自分が挑戦できないのかと思っていた。

内山　僕の時もまだ2団体だった。

二宮　ファンが望むのは誰が一番強いか。井上と中谷は階級と団体を統一しまくっている。これが凄い。二人とも相手を倒しまくっているし、また攻守ともに穴がない。

内山　井上はKOを期待されているので倒さなきゃいけない。突っ込みすぎている。判定でいいと思えば、数年は負けない。

二宮　この前、ラモン・カルデナス（米国）戦でダウンしたのも角度のないパンチだった。

内藤　僕が思うのは、井上には体重の壁が出てきている。

内山　それはある。

二宮　マニー・パッキャオ（フィリピン）は8階級制覇ですよ。

内藤　バケモノですよ。僕は同じ階級の王者だし、もしかしたら彼と戦っていた。

二宮　実現したらどうなっていたか。

内藤　打ち合うが、どこかでフェイントを交えている。僕は駆け引きに自信がある。

内山　でも絶対、勝てないと思う（笑い）。

二宮　それを言ってしまったらおしまい（笑い）。

内藤　やってみないと分からない。僕は不利だと言われる方がいい。3度目の世界挑戦となったポンサクレック（タイ）戦もそう。

内山　内藤さんは防衛5回ですよね。僕は倍の11回（笑い）。倍ですみません。

ファイトマネー事情

二宮　それでは、ここでお金の話をしたい。スポーツ選手で誰が一番稼いでいるか分かりますか。サッカーのクリスティアーノ・ロナウド（ポルトガル）で年収418億円。ボクシングはタイソン・フューリー（英国）が3位で221億9200万円。大谷は9位で115億8000万円。だいたい75％が競技収入、残り25％がスポンサー収入と言われている。井上のファイトマネーはAI調べで1試合10億円くらい。

内藤　僕は本当にもらってなかった。ジムが、選手のマネジメントなど全部やるという日本独特のシステムがある。

二宮　ライセンス制度が違う。日本はファイトマネーの33％をマネジメント料としてジムに払う。

内藤　僕は4回戦ボーイでデビューして賞金が6万円、そこからジムが33％引いて手取りは4万円弱。あれはどうだったのか。

内山　でも、ジムもお金を取らないと経営できない。

二宮　話をファイトマネーに戻すと、今は有料配信が収入の原資になっている。

内山　4年くらい前からですね。

二宮　二人も生まれる時代がもう少し遅かったら収入が一桁違っていた。

内山　有料放送だとボクシングを見る人が減っちゃいますよね。僕はテレビで試合を見て、高校から始めた。そういうのがないと今の人はボクシングをやらない。

環境やジムの違いは

二宮　収益構造が変わってきた。二人ともっと稼ぐ。それはともかく、二人は今、ジムの会長になった。昔は、アマはプロに勝てないと言われてきた。ところが今はアマでエリートとしてやってきた人が世界王者になるのが主流。環境の違いはどうか。

内山　小、中学からやっていないと勝てない時代。井上も中谷もそう。昔のように、あいつはケンカが強いからボクシングをすればいいというのでは難しい。

二宮　もう「あしたのジョー」は出ないのか…。内藤さんの手腕にも期待。

内藤　もちろん、プロボクサーを育ててみたい気持ちはある。

内山　大手のジムは、より強くなってくる。大橋ジムや帝拳ジムは凄いし、実力1位の選手はそっちに行ってしまう。だから僕はスカウトで2位、3位の選手を狙う。

リング禍が問題に

二宮　ところで、今、リング禍が問題になっている。

内藤　もっと試合をするにあたって医者を交えないと。

内山　スパーリングのダメージの蓄積だと思う。試合10日前にCT検査を義務づける。試合中にいきなり（意識混濁などに）なることは考えにくい。

二宮　もう少し早く試合を止めてもいい。日本では、選手が開頭手術になるとライセンスを失効し、そのまま引退になる。命がけで戦う選手の気持ちはわかるが、命を落としてまでやるものではない。周囲は選手のダメージを軽減し、次に備えさせた方がいい。

内山　それしかない。

二宮　燃え尽きることを美化しない方がいい。セカンドキャリアもある。

内山　親も心配になる。

今後に向け課題は

二宮　今後に向け課題は。

内藤　やっぱり地上波で試合中継をやらなくなったことが大きいという声がある。井上はいるが、続くスター選手がいない。そこが難しい。

内山　確かにそう。

内藤　今でも皆、亀田兄弟のことは知っている。

二宮　話題性も必要ということか。かつてボクシングには日陰の時代もあった。大橋秀行（大橋ジム現会長）が出てきた時、当時所属の米倉ジムの会長は〝150年にひとりの逸材〟と言った。それほどの逸材なら試合を見に行こうとなる。

内藤　ありだと思う。以前はよく選手にリングネームをつけていたが、ある時、協会からウチの会長が怒られた。「無頼三四郎」とか、ふざけたネームだと。

二宮　いいじゃないですか、プロなんだから。

内藤　僕もいいと思った。自分たちで自分の人気を下げる行動をしていると思ったこともあった。内山さん、これから変えて行ってよ。

内山　頑張ります。

二宮　最後に2人からボクシング界に期待することを。

内山　今は日本王者になってもファイトマネーが安い。100万円や150万円ではなく1000万円とかにならないと。世界を獲って始めて飯が食えるようになるのでは難しい。しっかり考えたい。

内藤　派閥がイヤ。ジム同士が仲良く、一緒に盛り上げて行こうという関係になっていけばいい。

二宮　ボクシングの話はいつも時間が足りなくなる。ありがとうございました。

近年では異色の2人

二宮　今日は素晴らしい王者を迎えたが、実は2人とも近年では異色。内藤さんはアマ経験がない。内山さんは社会人の経験者。

内藤　剣道をやっていたが、僕は元いじめられっ子。中学は卓球部、高校ではハンドボール部。上京した時にボクシングジムがあって始めたら楽しかった。始めた年が遅く、22歳でやっとプロテストに受かった。デビュー後は、これまでやってきたことを生かそうと。変則スタイルと言われるが、ハンドボールのフェイントを生かした。

拳を握りポーズをとる内藤大助氏（左）と内山高志氏

内山　僕はアマチュアで全日本選手権を3連覇したが、それは大学4年になってからだった。だから大学を卒業する時には就職活動をした。内定をもらったものの、4年時の全日本選手権で優勝したので海外試合に呼ばれた。そこで競技を続けた。一般企業につとめながらボクシングをやっていた。24歳の時、アテネ五輪予選で負けて引退と思ったがワタナベジムでプロ転向することにした。

二宮　2人とも、いわゆるメジャージムの所属ではなかった。

内藤　（宮田ジムからは）日本王者は出ていたが、世界王者はいなかった。

内山　自分が世界王者になれると思っていなかった。やっているうちに自信がついてきた。

内藤　僕は勉強はできなかったが、運動では頭が回った。ジムに入ったが、このままでは王者になれないと思ったから出稽古に行った。そうしたら会長に〝内藤という日本ランカーが来る〟ってチヤホヤされたいから行くんだろうとやきもちを焼かれた。世界王者にしてもらった宮田ジムに感謝はしているが、ただ、体制は古いままだった。よそのジムで自分なりに研究した。野木丈司トレーナーに出会って変わった。

パネリストのトークを聞く多くの参加者

一般企業につとめながらボクシング 内山
始めた年遅く22歳でプロテスト合格 内藤
共通点は日本人選手と複数の世界戦 二宮

二宮　野木トレーナーは元陸上選手で、マラソン指導者の小出義雄さんの弟子。小出さんはボクシングが好きでよく後楽園ホールに来ておられた。内藤さん、内山さん二人の共通点は日本人選手との複数の世界戦。内山さんは金子大樹や三浦隆司、内藤さんは亀田大毅や清水智信。内藤さんは亀田サイドから〝口撃〟されたが、良く耐えた。

内藤　亀田との試合では、僕はめちゃめちゃ怒っていた。

内山　本当、勝って良かったですね。僕は内藤さんを応援していた。負けたら外に出られなくなると思っていた。だから、いまだに（対戦前の調印式で切腹発言した）亀田には〝いつ切腹するのか〟って言っていますよ（笑い）。

二宮　あの試合は反則が多くボクシングのイメージを傷つけた。

内藤　目をグリグリされた。反則の練習をしてきた感じ。もつれた時に〝この野郎〟って言ったら、なぜか僕が減点された。インターバルでコーナーに戻り〝もう我慢できない。同じことをやる〟って言ったら、会長が〝お前が同じことをやったら、周囲に相手と同じ目で見られる〟と。あの時は良いことを言ってくれた。

二宮　内山さん、三浦との試合では、右手を使わなかった。左手だけで戦った。

内山　試合1カ月前に右手の骨が2本折れた。それでも勝てるだろうと思った。相手の目が腫れたので、レフェリーストップを狙った。実際8回が終わって相手が棄権。僕の勝ちになったが、実は危なかった。

二宮　ボクシングではセコンドが〝ボディー、効いてるぞ。行け〟などと言う。こちらの作戦が相手にバレてしまう。内山さんは、それをうまく利用していた。

内藤　そうですね。ボクシングは個人競技ではあるが、セコンドを含め、チーム戦だと思う。

今は有料配信が収入の原資 二宮

小、中からやらないと勝てない時代 内山

試合10日前CT検査の義務づけ 内山

地上波でやらなくなったことが大きい 内藤

スポニチ小菅社長あいさつ「大変興味深い話が聞けた」

懇親会の冒頭、スポニチ小菅洋人社長が主催者あいさつ。シンポジウムについて「大変興味深い話が聞けた」と感謝した。

今夏のスポーツシーンにも触れ「野球の長嶋茂雄さん、サッカーの釜本邦茂さんと相次いでレジェンドが亡くなった。紙面でも〝葬儀〟を出そうということでOB、現役問わず担当記者が〝弔辞〟を書く。それが我々の役割」と明かした。

最後に「フォーラムは皆さまのおかげで成り立っている」とスピーチし、フォーラム会員と協賛各社に感謝。グラスを掲げ、乾杯の音頭を取った。

上乾杯の音頭を取るスポニチ小菅社長
下懇親会の模様

ミス日本がドレス姿で魅了

2025ミス日本グランプリの石川満里奈さん(20)、同みどりの大使・佐塚こころさん(19)が美しいドレス姿で魅了した。

1月のコンテストで選出され、意欲的に活動を続けてきた。懇親会では、総合司会・出光ケイさんによるインタビューを受けた。石川さんは「フォーラム参加は2回目。中学時代はバドミントン部に入っていた。スポーツを通して輪が広がっていくことが楽しみ」と笑顔を浮かべた。佐塚さんは「フォーラム初参加です。手話を勉強している。格闘技が好きなので楽しみにしてきた」と笑みを振りまいた。サービス精神満点のスピーチで会場を盛り上げた。

美しいドレス姿で登場したミス日本グランプリの石川さん（左）と同みどりの大使・佐塚さん

◇協賛企業◇
アサヒビール
インフォーマーシャルズ
OSBIロダクト
FBI損害保険
大王製紙
塚ホールディングス
鹿島建設
神田外語グループ
高速オフセットプ
サントリービバレッジソリューション
下関三菱倉庫
三井住友海上火災保険
三菱ケミカルソリューション
富士通
フェアコーポレーション
長谷川鉄鋼
日本製紙
日本製航空
日本印刷
東京ガス
中外製薬
大塚製薬
第一生命保険
第一ビルヘルスケア
新日本産業
新栄不動産
菱洋エレクトロ
冷熱ビジネス
パルプ紙業
正聞
生命保険
ハウス食品
ナンバー
ウエルネス
SNCエンジニアリング
メガネ・コンタクトセンター
森・濱田松本法律事務所
毎日物流
ビッグ安田
369
ポニチ
パートナー
スポニチプラザ
※順不同